敦賀市立看護大学

地域・在宅ケア研究センター活動報告

令和6年度

地域・在宅ケア研究センター

敦賀市立看護大学

はじめに

地域・在宅ケア研究センター（以下、研究センター）は、敦賀市立看護大学の使命の一つとして、地域の人々の健康を守り安心して暮らせることを目指した活動の拠点として、平成 26 年（2014 年）4 月に設置され、本年で 10 周年を迎えました。これまで、研究センターは、地域住民の健康づくり支援、看護職の研究支援、地域活動・研究の情報発信、学生等のボランティア活動支援を柱にして地域貢献事業に取り組んできました。

令和 6 年度は、研究センターの設置の理念と今まで培ってきた事業を継承しつつ、さらに充実、発展すべく、研究センター運営委員、地域・在宅サポート隊（研究センターの運営に協力する学生ボランティア）が一丸となり、事業の企画・運営を行ってきました。

地域住民の健康づくり支援においては、従来から行ってきた健康講座の健康チェックに咀嚼力の測定を追加し、個別健康相談ではゆっくりお話しできる時間をとる試みを行いました。また、看護や地域医療保健福祉の質の向上を目指すことを目的とした研究報告会では、地域の実践活動の発表の充実を図るとともに、前年度の卒業研究のポスター展示を行いました。いずれも参加者から好評を得ることができました。

さらに、新たな活動として、昨年度の研究報告会に参加してくださった地域住民の方とのご縁により、西福寺のある原区のコスモス祭りに参加し、健康講座や学生企画の実施と、祭りの運営協力を行いました。学生が地域の活動に参加し、住民と交流しながら地域の課題を考える機会となりました。

このように、令和 6 年度はさまざまなことにチャレンジした 1 年でしたが、研究センターでは、高齢世代のみならず、子育て世代や現役世代等の幅広い世代に対しても健康教育のアプローチができる態勢を整えるため、新たな取り組みを進めています。本年度末から来年度にかけて研究センターの施設、設備の充実を図り、新たな教育機器を導入していく予定です。

今後も、敦賀市立看護大学の地域貢献の一環として、地域住民の健康づくり支援などの事業を通して、地域住民、関係諸機関と連携をとりながら、地域に根差し、地域に開かれた活動をしていきたいと考えています。

令和 7 年 3 月

地域・在宅ケア研究センター長

新田　紀枝

目　　次

はじめに

I. 地域・在宅ケア研究センターの概要・・1

1. 研究センター設置の目的
2. 研究センターの事業
3. 組織構成

II. 住民の健康づくり支援・・2

1. 看護大学健康講座
2. 出張講演
3. 敦賀市の事業への協力
4. 敦賀市民の健康ニーズの把握

III. 看護職の研究支援・・6

1. 看護研究方法論講座
   1）看護研究研修会
   2）看護研究グループ指導

IV. 地域活動・研究の情報発信・・10

1. 研究報告会

V. 学生等のボランティア活動支援・・・15

1. 地域・在宅サポート隊の育成
2. 地域ボランティア活動の窓口

VI. その他 ・・20

1. オープンキャンパス
2. 認知症サポーター養成講座の開催
3. 地域・在宅ケア研究センターの整備

I. 地域・在宅ケア研究センターの概要

1. 地域・在宅ケア研究センター設置の目的

地域・在宅ケア研究センターは、敦賀市立看護大学の地域貢献の一つとして、地域の人々の健康を守り安心して暮らせることを目指した活動の拠点として設立されました。地域に根差し、地域に開かれた教育研究をすすめるという看護学の特色の具体化に向けて、地域における看護職や医療保健福祉機関等との交流・連携を深めます。また、地域における看護課題とその解決方法を探求し、大学における学術研究を一層充実させると共に、看護職の資質の向上に寄与します。

2. 地域・在宅ケア研究センターの事業

地域・在宅ケア研究センターは、地域住民の健康づくり支援、看護職の研究支援、地域活動・研究の情報発信、学生等のボランティア活動支援などの地域貢献事業を行います。事業内容は図 1 に示す通りです。

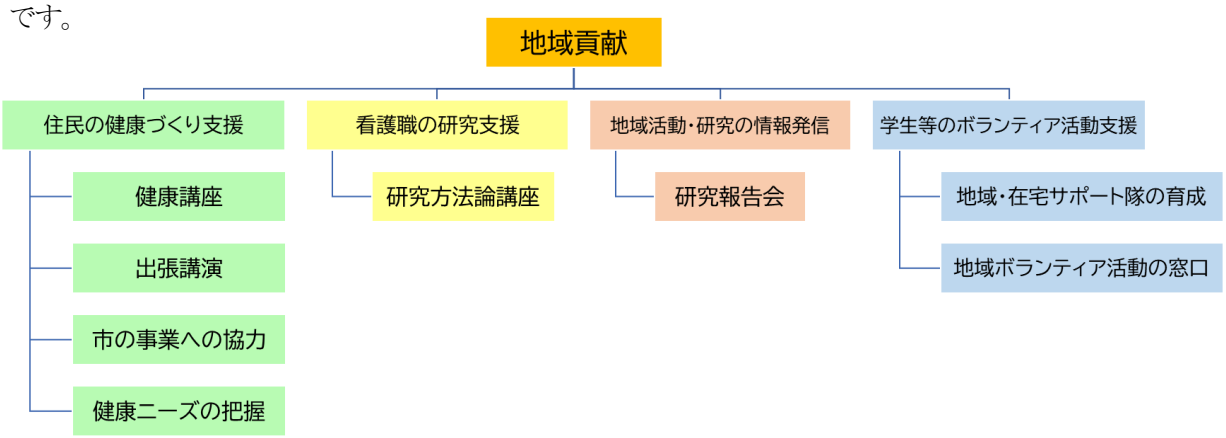


図 1　地域・在宅ケア研究センターの事業内容

3. 組織構成

地域・在宅ケア研究センターの位置付けを図 2 に示しました。大学に直接附属する機関であり、メンバーは教職員全員です。

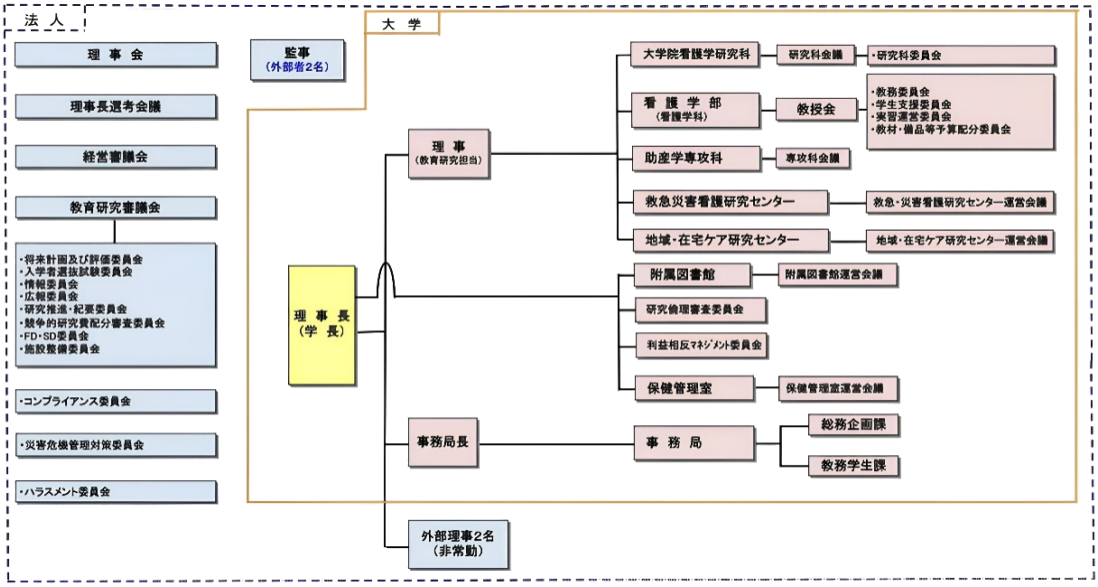


図 2　地域・在宅ケア研究センターの組織構成（2024. 4. 1 現在）

II. 住民の健康づくり支援

1. 看護大学健康講座

地域住民の健康づくりを支援するとともに、地域に開かれた大学として住民が気軽に集い、交流する場を提供することを目的に「看護大学健康講座」を開催しています。主な内容は、教員の専門性を活かした講演、住民が自身の健康状態を知り、継続的に健康づくりに取り組む契機となるような健康チェック（体力測定）・健康相談等です。本講座の健康チェックや独自企画については地域・在宅サポート隊学生が参画しています。

1）看護大学健康講座の開催計画と実施

令和 6 年度は、「まちの保健室～健康と生活を考える」をテーマに全 4 回の講座を実施しました。概要は表II－1 に示す通りです。

表II－1　令和 6 年度看護大学健康講座の概要

日時	場所	内容	従事者	参加者
第 1 回 7/26(金) 10:00-11:30	本学 教室 B	『熱中症について考える』 ①ミニ講義　新田 紀枝教授 「身近に潜む熱中症のリスクと予防」 ②健康チェック ③健康相談	教職員 6 名 学生 12 名	9 名
第 2 回 10/27(日) 9:00-15:00	おお原の里 駐車場	『花と健康について考える』 ①ミニ講義&ミニ体験　鈴木 隆史講師 「五感でたのしむ健康づくり」 「手づくりせっけんをつくってみよう！」 ②地域・在宅サポート隊企画 「コスモスの押し花&しおりづくり体験」 「Trick or Treat! おかしのつかみどり」	教職員 8 名 学生 10 名	延べ 27 名
第 3 回 12/1(日) 10:00-11:30	松原 公民館	『笑いと健康について考える』 ①講義　鈴木 隆史講師 「"笑い"から健康づくりを始めてみませんか？」 ②健康チェック ③健康相談	教職員 7 名 学生 8 名	15 名
第 4 回 3/5(水) 10:00-11:30	本学 看護実習室 1	『睡眠と健康について考える』 ①講義　林 愛乃助教 「ぐっすり眠ろう！～快眠のためのポイント～」 ②健康チェック ③健康相談	教職員 7 名 学生 6 名	27 名*

*教職員 2 名を含む

2）看護大学健康講座まとめ

令和 6 年度は、学内で 2 回、学外で 2 回、計 4 回開催することができました。今年度の第 2 回では原区のコスモスまつり会場でミニ講座とミニ体験を複数回開催する形式をとりました。子どもや子育て世代の保護者が来場し、参加者の年齢層も幅広い結果となりました。特に「五感で感じる」といった、参加者が実際に体験を通して健康づくりを考える講座は、日ごろの生活を振り返る機会になりました。表 II－2 は、これまでの看護大学健康講座の参加者数の推移です。今年度は地域で開催した第 2 回ならびに第 3 回講座への参加者数が多く、看護大学健康講座への参加者数は延べ 76 名となりました。今後も学外開催を織り交ぜながら看護大学健康講座を継続していく予定です。

なお、この講座は「未来協働プラットフォームふくい推進事業（大学等魅力アップ支援分）*」の助成を受けて実施しました。

表II－2　看護大学健康講座 参加者数の推移

開催年度	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6
開催回数	0	1	4	4	4
延べ 参加者数	0	14	124	71	78 *教職員 2 名を含む

*未来協働プラットフォームふくいは、県内大学等と産業界・医療界・金融界・自治体からなる新たな協議体として、令和 3 年 11 月 29 日に県主導で構築した連携組織です。これは「知と人材の集積拠点」である県内全ての高等教育機関の力を福井県の地方創生に活かすことを目的とした事業です。

2. 出張講演

出張講演は、地域住民を対象とした教養講座と健康講座を行っています。教員のそれぞれの知識と知恵を活かした講演テーマのパンフレットを作成し、その中から聴いてみたいと思う内容があれば、クラブ、サークル等のグループ単位で申し込んでいただき、日時、場所等を調整したうえで実施しています。令和6年度出張講演実施状況及び出張講演実施状況の推移は表II－3、表II－4に示す通りです。

表II－3　令和6年度出張講演実施状況

№	実施日	対象団体	講演テーマ	講師	実施場所	受講人数
1	7月27日	つるが男女共同参画ネットワーク	介護を“悔護”にしないために今からできること	鈴木 隆史講師	本学 大教室	29名
2	7月30日	敦賀市 老人クラブ連合会	足活をして元気に過ごそう 健康は足から！	北村 隆子教授	あいあいプラザ あいあいホール	180名
3	9月20日	東洋紡敦賀事業所労働組合	コミュニケーション技法を体験してみよう	井上 聡子教授	東洋紡敦賀事業所 厚生棟大ホール	24名
4	9月25日	愛老会（相生町老人クラブ）	健康寿命をのばすコツ 「ドキドキ・カミカミ・ニコニコ」	新田 紀枝教授	相生町会館	15名
5	10月22日	敦賀いきいき生涯大学 三七会	誤嚥性肺炎予防のための 口腔ケア	道重 文子教授	あいあいプラザ つどいの部屋	16名
6	11月 8日	男の健康づくり教室	生活習慣病予防のために足活をしましょう	北村 隆子教授 伊部 亜希教授	松原公民館	18名
7	11月 9日	社会福祉法人白梅学園	生まれてくれて、ありがとう	佐々木 綾子教授	児童養護施設晴喜館	15名
8	11月22日	粟野公民館	からだのリズムと健康	林 愛乃助教	粟野公民館	53名
9	1月16日	敦賀市長寿健康課	認知症予防について	横山 浩誉講師	あいあいプラザ あいあいホール	32名

表II－4　出張講演実施状況の推移

年度 回数・参加者数	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
開催回数	8	3	5	8	9
参加者数	191	102	302	258	382

≪生まれてくれて、ありがとう≫

≪誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア≫

≪からだのリズムと健康≫

3. 敦賀市の事業への協力

敦賀市では、平成28年度から介護予防事業として「女性のための元気づくり講座」（全5回）、「男性のための元気づくり講座」（全5回）が実施されています。

令和６年度は、それぞれ各１回の講義依頼に協力しました。内容は以下の通りです。

1）女性のための元気づくり講座

⑴ 実施日　令和６年６月５日（水）

⑵ テーマ　ロコモティブシンドロームとフレイルについて

⑶ 講　師　鈴木 隆史 講師

⑷ 参加者　31名

⑸ 参加者の感想

・楽しくやることができました。

・食べ物に気を使ったり、ウォーキングに出かけたり出来た。

・自分の体の事を考え、食事・運動・コミュニケーションを自発的にするようになった。

（写真は敦賀市長寿健康課よりご提供いただきました）

2）男性のための元気づくり講座

⑴ 実施日　令和６年８月７日（水）

⑵ テーマ　介護予防全般の知識、生活習慣病について

⑶ 講　師　北村 隆子 教授

⑷ 参加者　13名

⑸ 参加者の感想

・ 意識が大きく変わり、体調がさらによくなりました。

・ いつもさらに心が軽くなり、ポジティブになれたように感じます。

・ 毎日の定期的な運動、きちんと食事をとることで規則正しい生活が送れるようになった気がしています。

（写真は敦賀市長寿健康課よりご提供いただきました）

4. 敦賀市民の健康ニーズの把握

敦賀市の健康課題を把握することを目的に、Web 上で公開されている市町村別の衛生統計及び敦賀市の「第 3 次健康つるが 21」「敦賀市国民健康保険　第 3 期敦賀市データヘルス計画」「つるが安心お達者プラン 9」などにより健康、介護・福祉の情報の収集を行うとともに、市健康推進課、長寿健康課との連携に努めています。

また、健康講座の参加者にアンケートを行い、健康に関するニーズを把握するとともに、健康相談での相談内容の蓄積を行っています。

令和 6 年度から「未来協働プラットフォームふくい推進事業（大学等魅力アップ支援分）の助成を受け、原区住民を対象にした健康調査を計画し、調査の実施に向けて、準備を行っています。

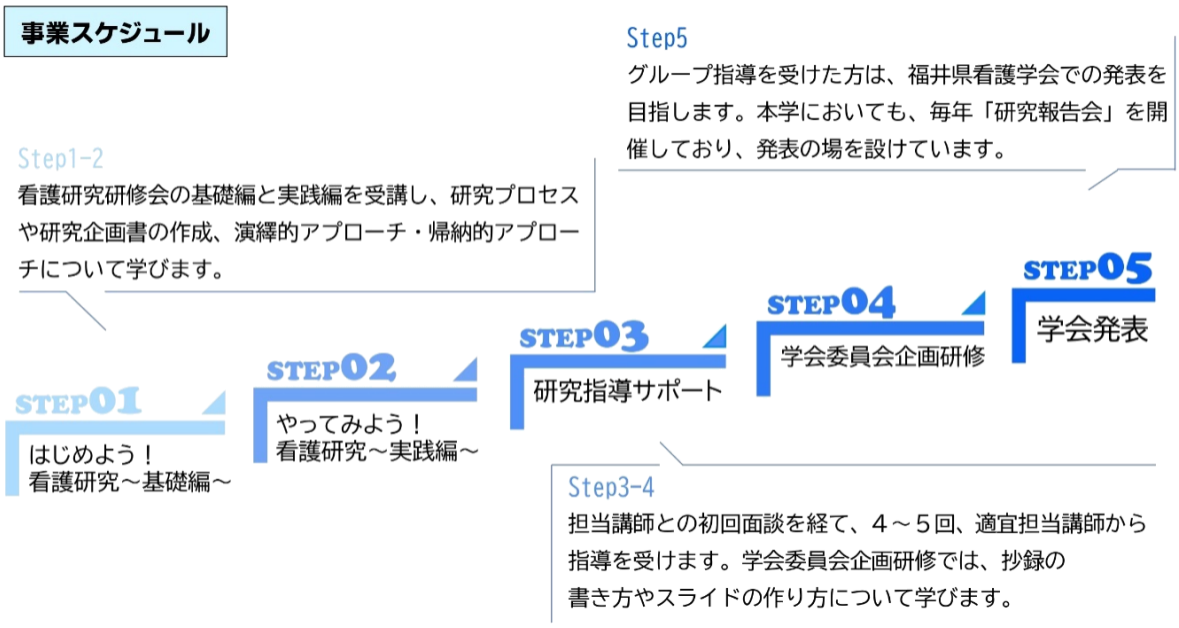
今後も、敦賀市民の健康に関する情報を継続して集積して分析を深め、地域の健康課題を明らかにして、敦賀市と協働し、地域に根ざした健康づくりについて模索し、センターの事業に反映していきたいと考えています。

≪健康講座での健康相談の様子≫

III. 看護職の研究支援

1. 看護研究方法論講座

看護研究方法論講座は、令和 6 年度より福井県看護協会との共催事業となり、「入門講座」を「看護研究研修会」に、「研究サポート」を「看護研究グループ指導」に改称しました。



1）看護研究研修会

令和 6 年度は、下記の通り（表III－1）看護研究研修会を実施しました。同研修会は第 1 回「はじめよう！看護研究～基礎編～」、第 2 回「やってみよう！看護研究～実践編～」の 2 日間で行われました。

表III－1　令和 6 年度　看護研究研修会の概要

日時		内容	担当
第 1 回 はじめよう！ 看護研究 ～基礎編～ 4/20(土)	9:30-11:50(140 分)	1. 看護研究の意義と基礎知識 1）看護研究の定義 2）臨床における看護研究の目的 3）看護研究の種類 2. 研究プロセス 3. テーマ設定	道重 文子 教授
	13:00-15:30(150 分)	4. 研究における文献検索とは 5. 資料の特徴 6. 活用できるデータベース 7. 論文を探すためのツール 8. 原稿の種類 9. 研究計画書とは 10. 研究計画書の書式と書き方 11. 研究計画書の例	濵園 環 教授
第 2 回 やってみよう！ 看護研究 ～実践編～ 5/25(土)	9:30-11:50(140 分)	1. 量的研究とは？ 2. 量的研究デザイン 1）実態調査研究 2）相関研究 3）実験研究・準実験研究 3. データの収集 4. データ分析	池原 弘展 教授
	13:00-15:30(150 分)	1. 質的研究とは 1）質的研究法の特徴 2）質的研究方法の種類 2. 質的研究のプロセス(GW) 1）事前準備 2）データ収集 3）分析の流れ 4）分析結果のまとめ方、構造化 3. 質的研究の信頼性を高めるには？	山﨑 加代子 教授

令和 6 年度の講座には、敦賀市内外の医療機関や健康福祉センターから延べ 22 人の看護職や保健師、助産師が受講されました。本学独自に開催した看護研究方法論講座《入門講座》を含む過去 5 年分の受講者数の推移は、表III－2 に示す通りです。

受講者の 40.9%が経験年数 10 年未満でした。また、職種別でみると看護師 68.2%、保健師 22.7%、助産師 9.1%の割合となりました。アンケートによると、研修内容の理解について 81.8%の受講者が「大変理解できた」「理解できた」と回答しました（第 1 回 : 80.0%、第 2 回 : 83.3%）。また、今後の役立ちについて 90.9%の受講者が「大変役に立つ」「役に立つ」と回答しました（第 1 回 : 90.0%、第 2 回 : 91.7%）。

以下に寄せられたコメントを示します。

・大学時代に卒論を書いたが、ゼミの先生がいてやっと書くことができた。職場において実施できるか不安。
・雑談を交えて話してくださったので肩の力を抜いて聞けた。

表III－2　入門講座および看護研究研修会の受講者数推移

開催年度	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	備考
講座開催日数	3 日	3 日 ※R4.5,6 月	3 日	※	2 日	※新型コロナ感染症等により R2 年度は全て中止、R3 年度は次年度に延期した。R5 年度は福井県看護協会との調整により開催中止とした。
延べ受講者数	5 ※申込者数	80	27	※	22	

≪第 1 回　はじめよう！看護研究～基礎編～≫

≪第 2 回　やってみよう！看護研究～実践編～≫

2）看護研究グループ指導

看護研究方法論講座《看護研究研修会》の受講者から表III－3 の通り研究指導の申込があり、研究サポートを行いました。過去 5 年の研究サポート及び看護研究グループ指導の実績は表III－4 に示す通りです。

表III－3　令和 6 年度看護研究グループ指導の実績

No.	テーマ※	施設名	担当教員
1	セル看護方式に変更し創生された時間を活用した座位保持活動の取り組みと成果	泉ヶ丘病院 【回復期リハビリテーション病棟】	道重　文子　教授

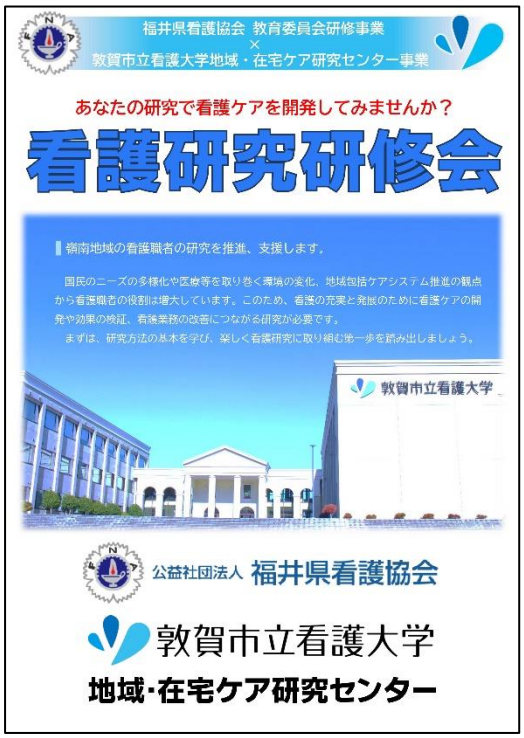
※初回面談時テーマ

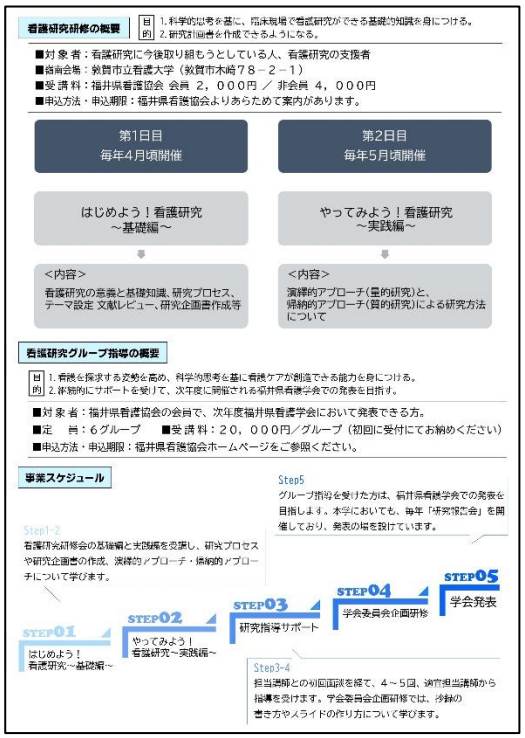
表III－4　研究サポートおよび看護研究グループ指導の実績推移

開催年度	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6
件数	1 件	7 件	11 件	8 件	1 件

3）看護研究方法論講座まとめ

福井県看護協会との事業共催化元年でしたが、看護研究研修会には敦賀市内外から、看護師だけでなく保健師や助産師も受講され、多職種に対して看護研究の推進を図ることができました。看護研究グループ指導については、すでに継続的な研究に取り組んでいる医療機関が多く、1 件のグループ指導にとどまりましたが、各医療機関で新たな研究テーマが立ち上げられる際には本事業を活用していただけるよう、引き続き周知していきます。今後も、嶺南地域の看護職の看護研究はもちろん、福井県内の看護職の看護研究の学会発表等、レベル向上に寄与できるよう、地域・在宅ケア研究センターとして取り組んでいきます。





IV．地域活動・研究の情報発信

1．研究報告会

看護や地域医療保健福祉の質の向上を目指すことを目的として、平成 29 年度より年 1 回、研究報告会を開催しています。本学教員の研究成果や地域の看護職の研究、実践活動の報告が行われました。

1） 研究報告会の実施

令和 6 年 11 月 5 日（火）に第 7 回敦賀市立看護大学研究報告会を開催しました。表IV－1 の通り 11 題の演題申し込みがあり（学外 7 題、学内 4 題）、研究成果や実践報告の口頭発表が 2 部構成で行われました。参加者は 151 名（演者 14 名、一般 29 名、学生 86 名、教職員 22 名）でした。

表IV－1　第 7 回敦賀市立看護大学研究報告会プログラム　（敬称略）

13：05 -14：10	第 1 部　活動報告　座長　森本 恵り子（敦賀市立看護大学）		
	訪問看護師が行うまちの保健室	山路 香織	指定訪問看護ステーション めいほう
	入所者の異常の早期発見（重症化予防）と 肺炎予防	魚見 薫	介護老人保健施設 湯の里ナーシングホーム
	回復期リハビリテーション病棟における 看護補助者としての活動報告	福田 直子	泉ヶ丘病院
	市立敦賀病院におけるがん患者サロン 「とまり木」の活動の現状	今井 裕子	市立敦賀病院
	台風に対する看護部タイムラインの課題	井上 ひろみ	市立敦賀病院
	「敦賀消防団機能別班(学生消防団)」の活動報告	青山 綾花 大竹 美海 林　愛嘉 宮本 志歩	敦賀市立看護大学 学生消防団（4 年生）
14：10 -14：20	休憩		
14：20 -15：15	第 2 部　研究報告　座長　伊東 由康（敦賀市立看護大学）		
	気管切開をしている重症心身障害児（者）における腹臥位とカフアシストケアの内容	草壁 和香奈	敦賀医療センター
	集中治療領域における早期リハビリテーション導入による結果の検証 －加算取得へゼロからの取り組み－	近藤 恵美	杉田玄白記念公立小浜病院
	長野県東信地区 A 市森林セラピーに関する実態調査	川口 桂嗣	敦賀市立看護大学
	臨床検査の組み合わせは、末期癌患者の短期予後を予測する尺度として有用か？ 日本の緩和ケア病棟における前向き観察研究	岡本 禎晃	敦賀市立看護大学
	地域で親と暮らし通所施設を利用する中年期統合失調症者の老後の生活の備え -現在の生活状況と老後の生活に向け抱く思いと準備行動-	井上 聡子	敦賀市立看護大学

ポスター発表	色が与える心理効果からみた臨床における看護服の色に関する考察-小児・慢性・救急領域の画像を用いた調査から-	岸田 綺星	2023 年度卒業生
	女子大学生の普段靴と足のトラブルの関連	今村 あかね	2023 年度卒業生
	全身清拭の方法に対する実態と看護師の認識	松成 沙弥加	2023 年度卒業生
	新卒看護師のリアリティショックと学生時代の振り返り	長谷川 玲奈	2023 年度卒業生
	難聴の子どもを持つ母親の体験 －就学後の子どもの親に焦点を当てて－	亀 美鈴	2023 年度卒業生
	養護教諭に関する研究の動向と課題 －質的研究結果に焦点を当てて－	渡邊 楓菜	2023 年度卒業生
	放課後等デイサービスで働く看護師に関する研究 －実践内容と困難について－	伊舍堂 晴日	2023 年度卒業生
	看護学生の生成系 AI（ChatGPT 等）の認知度と理解度について	鷲見 風果	2023 年度卒業生
	訪問看護ステーションに勤務する理学療法士と訪問看護師との連携の実際について	大久保 花	2023 年度卒業生
	女子中高生の痩身願望に関する文献検討－SNS の在り方の変化に伴う新しい健康教育について考える－	上原 彩椰	2023 年度卒業生
	高齢者の退院支援における多職種連携の課題に関する文献検討-看護基礎教育で求められる教育内容の考察-	梅田 美知琉	2023 年度卒業生
	保健師による外国人母子への支援の在り方の考察	森 恵璃伽	2023 年度卒業生

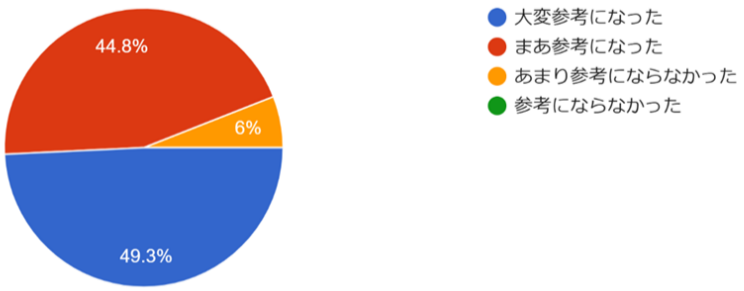
2） 研究報告会の評価

参加者のアンケート結果は、以下の通りです。また、これまでの演題数および参加者数は表IV－2 に示す通りです。

1. 参加者：86 名（回収数 67、回収率 77.9%）

学生	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	大学院生
人数	0	0	53	31	2
割合(%)	0.0	0.0	61.7	36.0	2.3

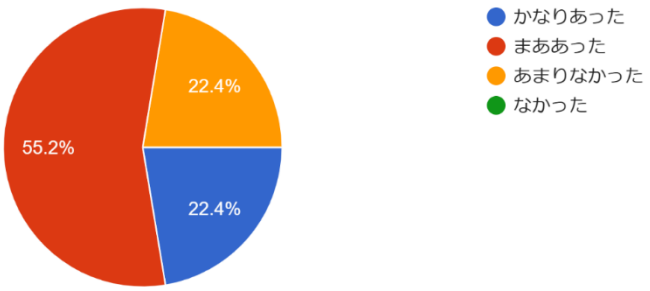
2. 卒業研究・看護研究に向けて参考になりましたか？



■参考になった理由

- アンケートなどを用いて、数的根拠を出すことで、考察が深まることがわかった。
- 今後の研究目的や、方法に生かしていけると感じたから。
- 発表の流れを知ることができた。
- 発表用資料の作り方、構成を見ることができたこと。
- 発表の仕方やどのような視点から研究や活動をしているのかなどを学ぶことが出来た。
- 資料の作り方や発表の主な流れ、活動によって得られた結果など勉強になった。
- 臨床において研究がどのような背景があり行われているのか参考になった。
- 報告だけでなく先輩の研究が展示されており、卒業研究のテーマや行う方法や研究の分野などを知ることができた。
- 現在行っている研究の分野に近い実践報告があった為知見が深まった。
- 研究テーマの設定、臨床での看護の実践やあり方について考えられた。
- どの視点から研究を行い、発展させ看護に活かしていくのかということを踏まえた上で、研究を実施し検討していくことが重要だと知ることができ、参考になった。
- どのように研究を進めていくのかをなんとなく理解することができた。

3．興味深い内容はありましたか？



■興味深かった内容

- 森林セラピーについては、とても興味深く聞くことができた。
- 肺炎予防のために離床時間を拡大したり、正しいポジショニングを行う必要があること。
- まちの保健室について、自発的に病院に行って検診を受けることが無い人にとって気軽に生きやすい存在になっているのだと感じた。
- がん患者サロン。
- 中年期統合失調症の老後の生活の備え、森林セラピー、臨床検査の組み合わせ。
- 消防団の活動について知れたから。
- 実習で精神疾患の患者や利用者と関わり、今後の生活への思いについて気になった時があった。
- 肺炎予防について。
- 実際の臨床の現場でどのような看護が実施されており、それによりどんな効果や患者にとって利益となりあるのかを知ることができた。
- がんサロンや台風発生時の連携、森林セラピーなど。

■感想

- 報告者の発表資料があるととても聞きやすいと思った。ありがとうございました。
- 卒業研究を行っている最中ということもあり、研究報告についてはとても興味深く聞くことができた。
- 発表を聞き、自身の卒業研究へ生かせる学びを得ることができた。
- 背景など順序立てて発表してくださっている方のものはすごくわかりやかかった。自身でも発表する際に順序立てて聞いている方がわかるよう発表していきたいと思いました。特に 1 番最後の方がわかりやすかったです。
- 就職してからも研究を続けていかないといけないことがわかった。
- 知ろうと思わなかった情報があり、視野が広がった。
- 臨床の方々の活動や研究を聴ける貴重な機会となりました。
- 統計の研究が多いイメージだったため、文献検討などについてももっと知りたいと思った。
- 様々な視点からの研究報告をお聞きし、自身の知識の向上や、新しい知見を学ぶことができよかったです。
- テーマの決め方や資料の作り方など 4 年次の卒業研究に生かせる学びを得ることができた。

《一般参加者》

■感想

- よい学びになった。
- 知見が広がり参考になりました。
- 高齢者が増えている中、認知症になられる方も多くおられます。認知症における運転評価についての話もあると良いかと思います。
- 様々な病院・施設で行われている取り組みについて聞く機会が得られ、とても有意義な時間を過ごすことができた。今後臨床に出る身として、新たな知見を得られ参考に実践に活かしていきたい。

表Ⅳ－2　敦賀市立看護大学研究報告会　演題数・参加者数の推移

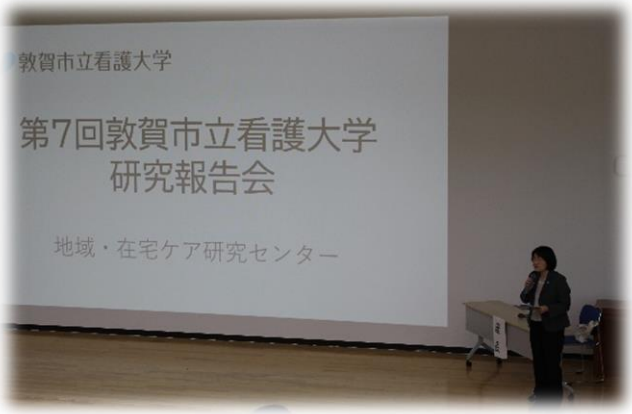
年度 演題数・参加者数	2020 （R2）	2021* （R3）	2022 （R4）	2023 （R5）	2024 （R6）
演題数	（中止）	8	（中止）	10	11
参加者数		115		160	151

※参加者数に報告者以外の教職員は含まれず

3）研究報告会まとめ

卒業研究のポスター発表は今年度初めての取り組みでしたが、在学生、参加者に成果を周知する機会となりました。報告会に参加した学生からは、「4 年次の卒業研究に生かせる学びを得ることができた」などの意見が得られ、学生の研究への関心を高める教育的な機会となっていることが伺えました。また、発表全体を通し、一般参加者からも、「知見が広がり参考になった」などの感想をいただきました。

今後も本報告会が、報告者、参加者双方の理解と交流の機会となり、地域での研究活動がより推進されることを目指していきます。


敦賀市立看護大学
第7回敦賀市立看護大学
研究報告会
地域・在宅ケア研究センター

演者

「避難所運営の後方支援活動」

訪問看護師が行う
まちの保健室

≪研究報告会の様子≫

V．学生等のボランティア活動支援

1．地域・在宅サポート隊の育成

1）地域・在宅サポート隊養成講座の開催計画と実施

前年度に引き続き、令和 6 年度も“学生が地域を理解し、住民と一緒に学べる場を作る”ため、地域・在宅サポート隊養成講座を開催しました。今後も継続してゆく予定です。概要は表V－1 に示す通りです。

表V－1　令和 6 年度地域・在宅サポート隊養成講座の概要

回	日時	場所	内容	講師	参加者
第1回	6/18 (火) 16:40-17:10	本学	自己紹介 講義「サポート隊学生の役割について」 意見交換「地域で行いたい活動について」	髙城 絵美 助手	5 名
	6/19 (水) 12:45-13:15			川口 桂嗣 講師	5 名
	6/25 (火) 12:45-13:15			川口 桂嗣 講師	8 名
第2回	9/18 (水) 9:00-13:00	原区	講義・演習「地域の理解（地区踏査）」	川口 桂嗣 講師	4 名
第3回	11/5 (火) 9:30-10:00	本学	講義「今後の地域・在宅サポート隊の活動について」 意見交換「コスモス祭りの振り返り」	新田 紀枝 教授 川口 桂嗣 講師 髙城 絵美 助手	12 名
	11/7 (木) 15:00-16:00				5 名
	11/8 (金) 15:10-16:10				3 名

2）地域・在宅サポート隊による地域貢献活動

毎年 10 月下旬に原区で実施されているコスモス祭りに初めて参加しました。地域・在宅サポート隊養成講座での学びを踏まえて、「Instagram（インスタグラム）を用いたカウントダウン動画の投稿」、「コスモスの押し花＆しおりづくり体験」、「Trick or Treat! おかしのつかみどり」を学生自らが企画し、運営しました。当日は 100 人を超える方々が学生企画に参加されました。

今後も継続的に学生と地域の交流を深め、学生の学びの機会の確保と地域の活性化を図っていきます。なお、今年度の活動状況は表Ⅴ－2 に示す通りです。

表Ⅴ－2　令和 6 年度 地域・在宅サポート隊の活動状況

№	実施日	事業名	活動内容	実施場所	参加数
1	7 月　9 日	ランチタイムミーティング	コスモス祭りに向けた企画検討	地域・在宅ケア研究センター	6 名
2	7 月 23 日	ランチタイムミーティング	コスモス祭りに向けた企画検討	地域・在宅ケア研究センター	9 名
3	7 月 26 日	第 1 回健康講座	健康チェック	本学 教室 B	12 名
4	7 月 28 日	オープンキャンパス	食育 SAT システムを用いたセンター企画の運営補助	地域・在宅ケア研究センター	1 名
5	9 月 28 日	オープンキャンパス	地域・在宅ケア研究センターの活動紹介	地域・在宅ケア研究センター	2 名
6	10 月　4 日	学生リーダー会議	コスモス祭りに向けた企画検討	地域・在宅ケア研究センター	3 名
7	10 月 19 日	草取りボランティア（コスモス祭り）	コスモス畑の雑草取り、コスモス摘み取り・押し花づくり	おお原の里駐車場	3 名
8	10 月 27 日	コスモス祭り・第 2 回健康講座	学生企画の実施と健康講座のアシスタント、原区出店等の手伝い	おお原の里駐車場	17 名
9	11 月　5 日	第 7 回研究報告会	運営補助（タイムキーパー、マイクランナー）	本学 大教室	3 名
10	12 月　1 日	第 3 回健康講座	健康チェック	松原公民館	8 名
11	3 月　5 日	第 4 回健康講座	健康チェック	本学 看護実習室 1	6 名

なお、この事業は未来協働プラットフォームふくい推進事業（大学等魅力アップ支援分）の助成を受けて実施しました。

2. 地域ボランティア活動の窓口

1）ボランティア等への参加

地域のボランティア等への参加実績及び年次推移は表Ⅴ－3、表Ⅴ－4 に示す通りです。

表Ⅴ－3　令和 6 年度ボランティア等参加実績

№	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	4 月 24 日 4 月 30 日	令和 6 年能登半島地震災害ボランティア	福井県	石川県被災地	災害ボランティア（瓦礫撤去等）	学生 2 名 学生 1 名
2	5 月 12 日	美浜町五木ひろしふるさとマラソン	救命ボランティア REM	美浜町丹生特設会場	自転車救命隊のサポートボランティア	学生 5 名
3	6 月 2 日	ｸﾘｰﾝｱｯﾌﾟ ふくい大作戦	敦賀市	気比の松原	海岸清掃	学生 4 名
4	6 月 23 日	福井ユナイテッド FC 公式戦試合運営	福井ユナイテッド株式会社	敦賀市総合運動公園陸上競技場	入場者対応（サンプリング品配布）	学生 9 名
5	4 月 13 日 6 月 8 日 7 月 7 日 8 月 1 日 9 月 8 日 10 月 5 日 11 月 16 日 12 月 14 日	「遊びと学び」塾	寺子屋「遊びと学び」塾	粟野公民館ほか	学習ボランティア	学生 5 名 学生 3 名 学生 3 名 学生 1 名 学生 1 名 学生 2 名 学生 1 名 学生 1 名
6	10 月 1 日	めいほう祭り	医療法人 明峰会	明峰クリニック 介護施設 気比の風	祭りの屋台運営	学生 2 名
7	10 月 26 日	市立敦賀病院健康応援フェスタ 2024	市立敦賀病院病院ﾌｪｽﾀ実行委員会	市立敦賀病院	各種コーナーのアシスタント	学生 1 名
8	11 月 2 日	福井赤十字病院災害対応訓練	福井赤十字病院	福井赤十字病院	災害対応訓練における傷病者役	学生 1 名
9	12 月 20 日	市立敦賀病院クリスマスコンサート	市立敦賀病院 CS 部会	市立敦賀病院正面玄関ホール	吹奏楽サークルと教職員による演奏	学生 7 名 教員 1 名 職員 1 名
10	1 月 12 日	嶺南ｽﾍﾟｼｬﾙﾆｰｽﾞﾁﾙﾄﾞﾚﾝ餅つき大会	子育てサポートセンターきらきらくらぶ	ハーツつるが店	参加者や支援者との交流と催しの手伝い	学生 2 名
11	2 月 16 日	嶺南ｽﾍﾟｼｬﾙﾆｰｽﾞﾁﾙﾄﾞﾚﾝ家族会ボランティア	子育てサポートセンターきらきらくらぶ	きらきらほいくえん	参加者の子どもの見守りと遊びの交流	学生 3 名
11	2 月 22 日	ツインズデー（ふたごの親子）ボランティア	子育てサポートセンターきらきらくらぶ	子育てサポートセンター　こころん	参加者の子どもの見守りと遊びの交流	学生 3 名
12	3 月 10 日	ステップコンサート	株式会社リハぷらす	駅前アクティブセンターステップ	吹奏楽サークルによる演奏	学生 7 名 教員 1 名
13	3 月 31 日	ミニコンサート	片付けっこ	平和町会館ひまわり	吹奏楽サークルによる演奏	学生 3 名 教員 2 名
14	通　年	人権ボランティア	福井地方法務局 福井県人権擁護委員連合会	県内各所	人権擁護啓発活動	学生 7 名 （登録数）

表Ⅴ－4　ボランティア等への参加実績の年次推移

	2020（R2）		2021（R3）		2022（R4）		2023（R5）		2024（R6）	
	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数
学　生	2	5	4	14	5	25	6	48	14	74
教職員	0	0	0	0	0	0	1	1	3	5

2）敦賀市各種委員会等への参加

敦賀市が主催する行事や各種委員会への参加実績及び年次推移は表V－5、表V－6 に示す通りです。

表V－5　敦賀市の各種委員会等への参加実績

№	実施日	委員会等名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	7 月 19 日	第 43 回敦賀マラソン大会参加記念品選定会	敦賀市教育委員会	敦賀市総合運動公園体育館会議室	敦賀マラソン大会参加記念品選定	学生 2 名
2	10 月 16 日～10 月 26 日	第 50 回衆議院議員総選挙期日前投票	敦賀市選挙管理委員会	期日前投票所	期日前投票立会人	学生 2 名

表V－6　敦賀市の各種委員会等への参加実績の年次推移

	2020（R2）		2021（R3）		2022（R4）		2023（R5）		2024（R6）	
	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数
学　生	2	5	3	8	2	5	4	18	2	4

3）地域行事等への参加実績

地域行事等への参加状況及び年次推移を表V－7、表V－8 に示す通りです。

表V－7　地域行事等への参加状況

№	実施日	イベント名	依頼者等	場所	内容	参加人数
1	9 月　3 日	氣比神宮祭礼	NPO 法人 つるがみこしの会	元町・蓬莱町・川崎町・松栄町	各所における神輿担ぎ	学生　2 名 職員　1 名
2	9 月　4 日	敦賀まつり 民謡踊りの夕べ	敦賀まつり振興協議会 木崎区自治会	本町 1･2 丁目通り	敦賀まつり民謡踊りへの参加	学生 11 名 教員 11 名 職員　3 名
3	10 月 27 日	コスモス祭り	敦賀市原区	おお原の里駐車場	コスモス祭りへの参加	学生 18 名 教員　6 名 職員　2 名
4	11 月 24 日	天満神社秋祭り	木崎区自治会	天満神社参道 宝治院駐車場	天満神社秋祭りの運営協力	学生　4 名 教員　1 名 職員　3 名

表V－8　地域行事等への参加実績の年次推移

	2020（R2）		2021（R3）		2022（R4）		2023（R5）		2024（R6）	
	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数
学　生	0	0	1	11	0	0	1	4	4	35
教職員	0	0	1	1	0	0	0	0	4	27

≪ボランティアや地域行事等への参加の様子≫

VI. その他

1. オープンキャンパス

本学では開学以来、年に 2 回オープンキャンパスを開催しています。令和 3 年度からは、地域・在宅ケア研究センターの事業はもとより、事業に参加している学生の活動にも関心を高めてもらおうと、活動紹介の展示等を行っています。今年度も、高校生をはじめ、多くの来場者の方に活動を知ってもらう機会になりました。

2. 認知症サポーター養成講座の開催

認知症高齢者等にやさしい地域づくりの一環として、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成する目的で「認知症サポーター養成講座」を開催しました。内容は以下の通りです。

実施日　令和 6 年 7 月 22 日（月）
テーマ　認知症を知る～認知症を正しく理解し、
　　やさしくよりそいましょう～
講　師　福井県嶺南認知症疾患医療センター
　　室長　寺川　智浩　氏（医療法人敦賀温泉病院）
受講者　47 名（本学 2 年生）

3. 地域・在宅ケア研究センターの整備

地域・在宅ケア研究センターでは、これまで健康教育に力を入れてきた高齢世代のみならず、子育て世代や現役世代等の幅広い世代に対してアプローチできる態勢を整えるため、新たな教育機器を導入していきます。

1）食育SATシステムの導入

敦賀市ならびに福井県内において顕在化している健康課題（生活習慣病や子供の虫歯、高齢世代の低栄養等）への対策を支援するため、新たに食育SATシステムを導入しました。当センターで開催した食育SATシステムの説明会には、学内の教職員以外にも多くの自治体職員の方にご参加いただきました（表Ⅵ－1に示す通り）。

今後は、学部生の講義や演習はもちろん、地域・在宅ケア研究センターで実施する健康講座やオープンキャンパス等での活用を予定しております。また、当システムを有効活用していただくため、敦賀市をはじめとする嶺南地域の各自治体や関連団体向けに機器の貸し出しを検討しています。各地域での健康イベントや食育改善推進委員の研修会等で食育SATシステムの使用を希望される団体は、地域・在宅ケア研究センターまでお問い合わせください。

表Ⅵ－1　食育 SAT システム説明会の概要

日時	場所	内容	参加者
3/10 (月) 15:00-16:30	本学 地域・在宅ケア研究センター	食育 SAT システムの 使用方法について	本学教職員　18 名 敦賀市健康推進課　3 名 若狭町健康医療課　2 名 高浜町保健福祉課　1 名

≪食育 SAT システム説明会の様子≫

2）e スポーツ体験ツールの導入

近年、バーチャル空間で老若男女が交流できる「e スポーツ」が注目を集めています。アクティブに動くことが困難な方でも、ゲームを通じて指先を動かし、脳に刺激を与えることで楽しみながら健康増進に取り組むことができることから、全国各地の自治体や高齢者施設が介護事業に「e スポーツ」を取り入れており、認知機能の向上やフレイル予防への効果が認められています。

また、世代を超えて楽しむことができるため、多世代交流の促進も期待できます。これまで地域・在宅ケア研究センターが取り組んできた健康講座等のイベントで、「学び」や「運動」とは違う切り口からの健康づくり支援にアプローチしていきたいと考えています。

3）新たな健康測定機器の導入

測定部位である手首（トウ骨）に超音波を伝播させ、透過した波の形から“骨の強さ”を算出し、骨健康度を A～E までの 5 段階で評価する「骨健康度測定器」と、血管年齢と血管の老化度合いを点数で表示する「血管年齢測定器」を導入しました。これらの機器を健康講座における健康チェックや各種イベント等で活用することで、地域のみなさんが自身の健康に目を向けるきっかけをつくりたいと考えています。

≪骨健康度測定器≫

≪血管年齢測定器≫

これからの地域・在宅ケア研究センターは、「まちの保健室」の役割を担うべく、地域住民が気軽に立ち寄れる、より開かれた場所を目指していきます。子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした地域住民の心身の健康、子育て、生活習慣予防、介護等の様々な不安や悩みに対し気軽に話せる場を提供していきたいと考えています。

令和 6 年度地域・在宅ケア研究センター運営会議　構成員

（〇センター長、五十音順）

伊東由康、川口桂嗣、佐々木綾子、鈴木隆史、髙城絵美、〇新田紀枝、（事務局）金森大輔

令和 6 年度地域・在宅サポート隊（20 名）

（〇学年リーダー、五十音順）

2 年生　岡﨑萌恵、片岡実羽菜、軸原明日香、玉腰萌衣、〇天藤渚
3 年生　岩井愛結、梶川涼夏、柴田希美、髙野夢生、〇多田結生花、中村美晴、星野杏奈、本間一瑠、増田希望、松葉千珠、桃井彩花、渡辺彩梨紗
4 年生　青山綾花、〇岡未愛麗、佐藤高輔

令和 6 年度　地域・在宅ケア研究センター活動報告書

令和 7 年 3 月 31 日発行

編集発行　敦賀市立看護大学

〒914-0814　福井県敦賀市木崎 78-2-1　TEL:0770-20-5500

敦賀市立看護大学
TSURUGA Nursing University